

2022年5月12日 記者会見 質疑応答（神戸）

発表内容：2022年3月期決算について

日 時：2022年5月12日（木） 17時00分～17時40分

場 所：みなと銀行 本店

発表者：関西みらいフィナンシャルグループ 代表取締役
みなと銀行 代表取締役社長
みなと銀行 代表取締役兼常務執行役員

西山 和宏
武市 寿一
藤本 剛

【質疑応答】

Q. 中間期は増益であったが、通期では減益となった一番の要因は何か？

A. (武市)

通期減益となった主な要因は2つ。1つ目は与信費用。元々30億円で計画していたが、コロナ禍を踏まえた8億円の予防的引当に加え、個社別の予防的引当を8億円、合計16億円を追加で引き当てたこと。2つ目はマーケット要因。外債を中心に予定していなかった19億円の健全化を図ったこと。ただし顧客向けサービス業務利益は13億円増加しており、本業での利益は順調だったと考えている。

Q. 景況感が悪化しているなかで、今期の目標当期純利益は倍増しているがその達成根拠は？

A. (武市)

業務粗利益は、営業部門で13億円、市場部門では18億円の増益と見ている。内訳は営業部門が個人部門で3億円、法人部門で7億円、その他外為等で3億円。市場部門はマーケットの回復に伴う増益が10億円、投資事業組合への出資に対する利益が8億円。これらを主因にトップラインの増益を32億円見込んでおり、目標は十分達成できると考えている。次に与信費用だが、前期43億円にも拘わらず今期35億円で足りるのか疑問に思われたのかもしれないが、前期に予防的に積んだ8億円は今期のために引き当てたもので、これを踏まえると妥当な水準であると考えている。

Q. これ以上業績が悪化する企業は出てこないとの考えか？

A. (武市)

小口先ではそれなりに出てくる可能性もあるが、大口先はある程度先が見えており頻発することはないと見ている。

Q. 前期債券の健全化を 19 億円実施したとのことだが、今期の有価証券の運用方針は？

A. (武市)

マーケット予測は非常に難しいが、中期的には金利が下がり債券価格も戻ってくると見ている。みなと銀行の市場収益の約 6 割は利息や配当、残りの 4 割を売買益で確保している。すぐに売買益を確保することは難しい環境だが、今期の後半で売買益を確保し、計画を達成したい。

Q. 資金需要の変化と今後の見通しについて。

A. (武市)

前々期はゼロゼロ融資を中心に中小企業向け貸出が約 1,000 億円増加し、法人預金も約 1,100 億円増加した。一方、前期の中小企業向け貸出及び法人預金はほぼ横ばい。見方によっては、まだ前々期の貸出金が使われていない状況にあるとも言える。

設備投資をしたいと考えている会社も相応にあるが、最近の経済環境を鑑み、様子見をしている状況と見ている。一方で原材料の高騰により、運転資金需要は増加してきており、前年度より資金需要は相応に増加すると見ている。

以上